

自ら考え、正しく判断し、心身ともに健康で、実践力のある児童の育成



大正っ子

帯広市立大正小学校

Obihiro Taisyou
Elementary School

HP:<http://www.taisyo.obihiro.ed.jp>

No.20

平成29年6月16日 その②

6月19日は、本校の開校記念日です ～ 本校の足跡を辿ってみましょう ～

～3連休となりますが、事故や怪我の注意や健康面でもお気をつけください。また、山や川での事故が全国各地で増えています。子どもだけで行かないようにお願いします。～

6月19日は、本校の開校記念日です。本校は、昭和48年4月6日に以平小学校との統合により帯広市立大正小学校として開校、46回目の開校記念日を迎えます。

それでは、本校のルーツを簡単に紹介していきます。

創立 明治33年 4月 1日 幸震簡易教育所

明治36年 6月 26日 幸震尋常小学校

校舎新築開校（基線78番地）

統合開校 昭和47年3月24日 大正小，以平小との統合に伴い，大正小を廃校
47年4月 6日 帯広市立大正小学校として現在地に開校

平成24年度に開校40周年記念式典を挙げる。

※ 昨年度（28年度）までの卒業生は1,754名に上ります。

校章 昭和47年7月制定



大正の2文字を柏とペンであしらったデザインとなっています。

柏 → 先人の開拓精神を引き継ぎ、たくましく生きぬこうとする強い意志を表しています。

ペン → 学業に励み、向上に努めることを表す。

※ 詳細は、本校のHP（ホームページ）をご覧ください。



帯広市立大正小学校 いじめ防止基本方針

平成26年1月17日策定

1. いじめの定義といじめに関する基本的な認識

- ◎人間としての存在、人権を根底から否定し侵害するものであり、絶対に許されない行為である！
- いじめとは、「当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの」（起こった場所は学校の内外を問わない。）
＜平成18年度 文部科学省＞

以上の考え方のもと、本校ではすべての職員が「いじめが、どの学校、どの学級でも起こりうるものであり、いじめ問題に全く無関係ですむ児童はいない。」という基本認識に立ち、全校の児童が「いじめのない明るく、仲良く楽しい学校生活」を送ることができるように、「いじめ防止基本方針」を策定する。

2. いじめへの対応

対応の5原則

- 「いじめは絶対許さない」 → 毅然とした態度で臨む
- 「いつでもどこでもどの子にも起こり得る」 → 危機意識をもつ
- 「児童の発する小さなサインを見逃さない」 → 早期発見、早期指導に努める
- 「ふれあいの機会や場면을多くもつ」 → 児童生徒理解
- 「すべての教師で指導に当たる」 → 情報連携と行動連携

3. いじめの未然防止のための取組

児童一人ひとりが認められ、お互いに相手を思いやる雰囲気づくりに学校全体で取り組む。また、教師一人ひとりがわかりやすい授業を心がけ、児童に基礎・基本の定着を図るとともに学習に対する達成感・成就感を育て、自己有用感を味わい自尊感情を育てることができるよう努める。道徳の時間に命の大切さについての指導を行う。また、「いじめは絶対に許されないことである」という認識を児童がもてるように、教育活動全体を通して指導する。そして、見て見ぬふりをすることや知らん顔をすることも「傍観者」としていじめに加担していることを理解させる。

- (1) いじめを許さない、見過ごさない雰囲気づくりに努める。
 - ①「いじめ非行防止サミット」の取組を生かした児童会活動を推進する。
 - ②挨拶運動を更に定着させる。
- (2) 児童一人ひとりの自己有用感を高め、自尊感情を育て教育活動を推進する。
 - ①異年齢集団による遊びや集会活動を充実させる。＜運動会、ふれあい集会など＞
 - ②児童の自発的な活動を支える委員会活動を充実させる。＜自治活動＞
 - ③安心して自分を表現し、見通しをもって学習に取り組める発問や指導方法等を工夫する。＜わかる授業、個別指導＞
 - ④人とつながる喜びを味わう体験活動を推進する。＜じゃがまる農園活動など＞

本校では、いじめ対応の五原則である
「いじめは絶対に許さない」
「いつでもどこでも起こりうる」
「児童生徒の発する小さなサインを見逃さない」
「ふれあいの機会や場면을多くもつ」
「すべての教師で指導に当たる」
を基軸に子どもたちに向き合っています。

過日、全校で「いじめアンケート」を実施しました。学年や成長段階を配慮しての実施としました。子どもたちの回答に学級担任がきちんと目を通し、必要に応じて子どもたちと面談して向き合っています。ご家庭には、情報を共有することを第一に考え、連携した双方向の取組となるように進めてまいります。

ご家庭でも、これまで以上に、お子さんの声に耳を傾けていただき、お気づきのことがありましたら、学校までお知らせください。

どうぞよろしくお願いいたします。



上記写真は、6月16日 花壇づくりの様子(次号で紹介)